

あったかい寝屋川市伝えたい

シンガーソングライター

井村 実稀さん (24歳・秦町)

「わが街のテーマソングを」と作詞作曲したのが「ワガヤネヤガワ」です。寝屋川市のキャッチフレーズを曲名に拝借。「明るく、あったかいイメージがぴったりだったので」と屈託のない笑顔を見せます。

昨年10月、ほかの町の児童が地元を元気にする歌を作ったと知り、「小学生がほんまに？」とびっくり。「あんたも作ってみたら」と友人に勧められ、その気になったそうです。



愛用のギターを手にする井村さん

「寝屋川に帰ると落ち着きます。嫌なことがあっても笑顔にしてくれる街です」。そんな思いを込め、約3分間の「ワガヤネヤガワ」を1時間足らずで作ってしまいました。「見た光景とか、誰かの言葉とかが、歌詞になってポンと降りてくるんです」。18歳の頃から作り始めたオリジナル曲は20曲を超えました。

5歳の頃からピアノを習いましたが、夢は歌手でした。「高校でエレキギターを弾いていた友だちと

仲良くなり、この子と一緒にバンドを組みたい一心で猛練習したのがギターとの出会いです。ところが、その友だちが突然転校。以来、一人で活動を続け、寝屋川市駅近くの広場などで演奏する路上ライブを始めた

のは2年ほど前からです。「小学生の頃は物静かな子でしたが、人前でも歌えるようになりました」。「イベントにも呼ばれるなど活動の幅も広がり、路上ライブで演歌をリクエストしてくれた高齢のファンも応援に駆け付けてくれるようになりました」。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大でライブのキャンセルが相次ぎました。「中にはギターケースを持って電車に乗ると、乗客の視線が気になったという仲間もいました」。それでも「この間にギターの腕が落ちたら大変。元に戻るまでいっぱい曲を作って過ごします」と気持ちはあくまで前向きです。

「みんなで助け合って一日も早く普段の生活に」との思いから作った最新曲「願い」を5月から「ワガヤネヤガワ」とともにYouTubeの「imuchannel」で紹介。「これからも心に響く曲を作っていきたい」と意欲を見せています。



北村恵司さん考案 「はちかづきちゃん」を 折り紙で作ろう

方を発見。20年以上の時を経て、動画で作り方を紹介します。

北村恵司さん

大手家電メーカーに勤めていた50歳の頃に折り紙と出会い、退職後は「折り紙を楽しみましょう」とキャッチフレーズに市立児童会館などで折り方を教えました。寝屋川市のマスコットキャラクター「はちかづきちゃん」の折り方も考案し、80歳で亡くなるまでに動物など数多くの作品を創作。外国語版も含めて本を10冊出版し、世界の人々に楽しさを伝えました。



▲平成5年当時の広報

作り方はコチラ▶



新型コロナウイルス感染症の影響で自宅に居ることが多いかと思

います。頭の体操に折り紙を折ってみませんか。平成5年3月発行の広報ねやがわで、

「はちかづきちゃん」の折り

方を発見。20年以上の時を経て、動画で作り方を紹介します。

方を発見。20年以上の時を経て、動画で作り方を紹介します。